

TOKYO GRAND PRIZE

Keywords

モータースポーツ 東京PR 交通インフラ
観光産業 インスタントシティ

1. 序

自民党「モータースポーツ振興議員連盟」は2014年の1月17日、Fomural モナコ・グランプリのような、市街地の公道でのサーキットレースを可能とするため、道路使用許可などの行政手続きを円滑化する「モータースポーツ推進法案」を24日召集の通常国会に提出する方針を固めた。議連は国際自動車連盟（FIA）が管轄する電気自動車の世界選手権「フォーミュラE」を来年、日本で開催することを目指しており、2020年の東京五輪に向け外国人観光客を呼び込む起爆剤としたい考えである。

2. 研究背景

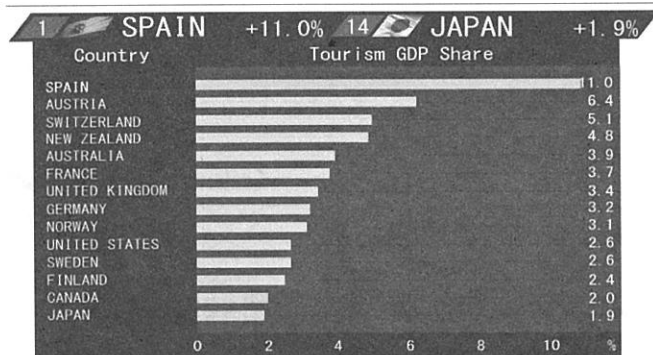


図1 観光産業規模の国際間比較

日本の観光産業の規模は世界の主要国と比較すると小さい。観光庁が発表した、観光産業規模の国際間比較のグラフをみると、1位スペイン11%に対して日本は1.9%にしか至らない。観光立国として代表されるモナコ公国や、シンガポールでは自動車の市街地レースを行っており、毎年世界中から観光客が訪れ、国の一大イベントとして成り立っている。

3. 研究目的

よって、東京の市街地でモータースポーツによる市街地サーキットレース「TOKYO GRAND PRIZE」を可能にする計画を行うことで、新たな観光要素として世界から人々を呼び込み、東京市街地レースの観戦や、東京を訪れた人たちとメディアを通して観戦する人たち（図5）が、東京の街の景観や文化に触れる機会をつくり、世界中の人に東京を知ってもらうことで、東京の観光産業をさらに活性化させることを目的とする。



AK11094 野口 太郎

4. 敷地

東京都千代田区丸の内を対象とする。丸の内は、オフィス街として発展し、丸の内ビルディング、新丸の内ビルディング、三菱東京UFJ銀行本店ビル、郵船ビルなどの大手銀行や大企業のビルが建ち並び、日本の金融・経済の中心地の一つとなっている反面、皇居や三菱一号館、東京駅丸の内口など歴史を感じる街でもある。東京駅はJR各線と新幹線が通っており、1日約41万人が利用している。いわば、東京の中心であり、象徴である都市といえるだろう。



図2 東京丸の内、東京駅周辺

5. プログラム

市街地サーキットを東京で行う上で、前項に述べた東京の街の特徴を感じることができるよう、プログラムとして、以下のものを計画する。

5.1. レーシングコース

従来、レーシングサーキットの設計は建築家が行っており、有名な建築家としてヘルマン・ティルケ（ドイツ人建築家）が挙げられる。東京駅周辺の公道を用いて、東京の街の文化や建築、景観、インフラ、地形などの要素と、周辺の交通事情や人の動線を元にコースレイアウトを考案する。

5.2. スタンドプロムナード

レースというイベントが開催される期間のみ、何万人もの人が東京を訪れる。丸の内の景観を俯瞰でき、円滑に移動できる動線の構築と観戦のためのスタンドプロムナードを計画する。従来の固定席に座って観るスタンドシート型ではなく、観客の視点に注目し、新たな観戦空間を提案する。

5.3. メディアタワー

展望デッキやラウンジ、レースを統括するメディアセンターなどのホスピタリティ機能を持つタワーを計画する。

6. 市街地サーキットの基本

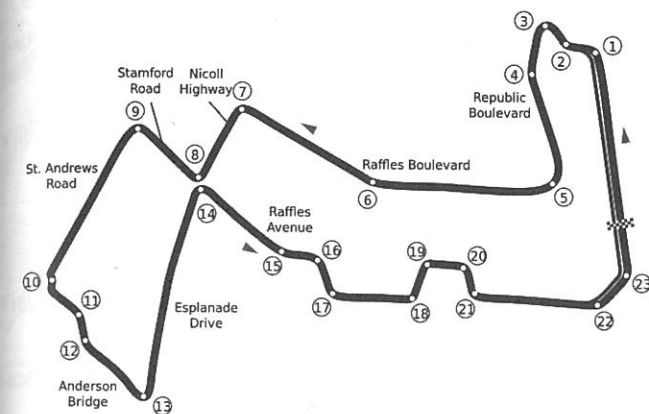


図3 市街地コース・マリナーベイストリートサーキット

（出典：<http://formula1-data.com/>）

レーシングコースは、メインストレートがスタートの位置となり、第一コーナー、第二コーナーと各コーナーを進み、最終コーナーを通過すると一周するという構成になっている。マリナーベイストリートサーキットは、FomuralシンガポールGPの際に、シンガポールの公道を使ってつくられる、全長5.067km、コーナー数24のコースである。レース開催期間中のみ一般車両の交通を禁止して行われる。

7. 設計趣旨

丸の内に計画する市街地コースと、丸の内の建築、景観などを元に、レースを観戦するための空間と、都市を俯瞰できる空間を計画する。

8. コースレイアウト



図4 コースレイアウトの計画

東京駅を中心に、全長5.973km、コーナー数22のコースを計画する。ホームストレートを八重洲口駅前通りとし、時計回りに周回する。

9. 設計手法

9.1. 配置計画

普段はオフィスワーカーの街である丸の内が、モータースポーツ開催期間は観光で訪れる人々も集まる一時的なインスタントシティとなる。東京駅プロジェクトsuicaの発売時は、大勢の人が押し寄せたことにより問題となった。よって本計画では、人の動線プロムナードから見える視点を考慮し、丸の内のビル群やサーキットの配置などから、配置計画を決める。また、高さのレベル差をつけることで景観に変化を与える。

9.2. 平面計画

6つの異なる平面パターンを、それぞれ場所と機能に応じて計画する（詳細は次項参照）。

- (1)地上階へのアプローチ。
- (2)上に登るとより高いところから眺められるデッキ。
- (3)両側に設けられたデッキは、レーシングコースや見晴らしのいい眺望など人が多く集まることができる。
- (4)ちょっと座って一休みできる空間。
- (5)窓側にくぼんだスペースはくつろぎながら景観を楽しむことができる。
- (6)イベントに応じた展示物を閲覧できる。

10. おわりに

ひとつながりに続くスタンドプロムナードは流動的に人々を導き、新たな空間を演出する。東京で市街地サーキットレースを行う「TOKYO GRAND PRIZE」の実現が、東京の新たな都市景観を創りだし、世界から東京が注目されるきっかけとなる。



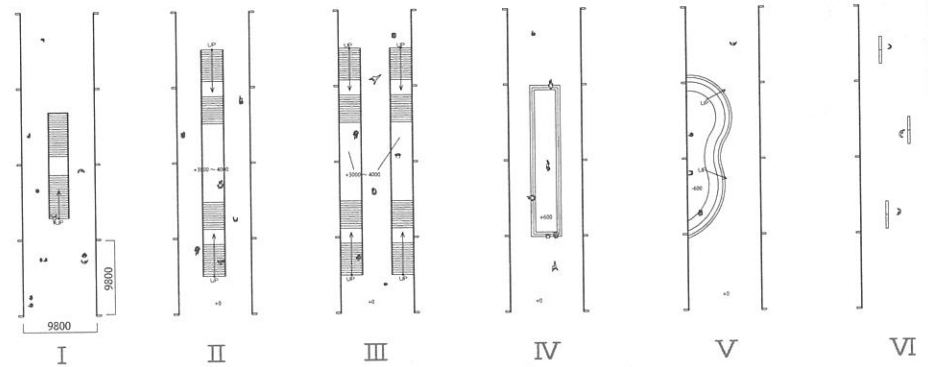
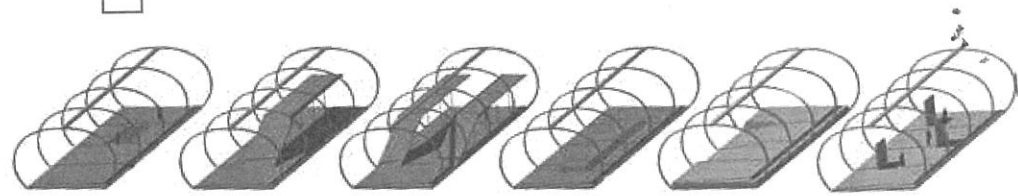
図5 メディアからみた視点

参考文献

- 1) 仮設建築のデザイン 朝倉則幸 鹿島出版会 1993年
- 2) 街並みの美学 芦原義信 岩波書店 1990年
- 3) 鈴鹿サーキット改修工事資料 (株)モビリティランド 2009年
- 4) 観光庁の主要政策課題について 観光庁 2010年
- 5) F1 2014 Monaco GP- Hamilton vs Rosberg Onboard <http://www.youtube.com/watch?v=enO9Uvhndfg>
- 6) 橋のデザインと構造 Matthew Wells 丸善株式会社 2003年
- 7) ペデ：まちをつむぐ歩道橋デザイン 鹿島出版会 2006年

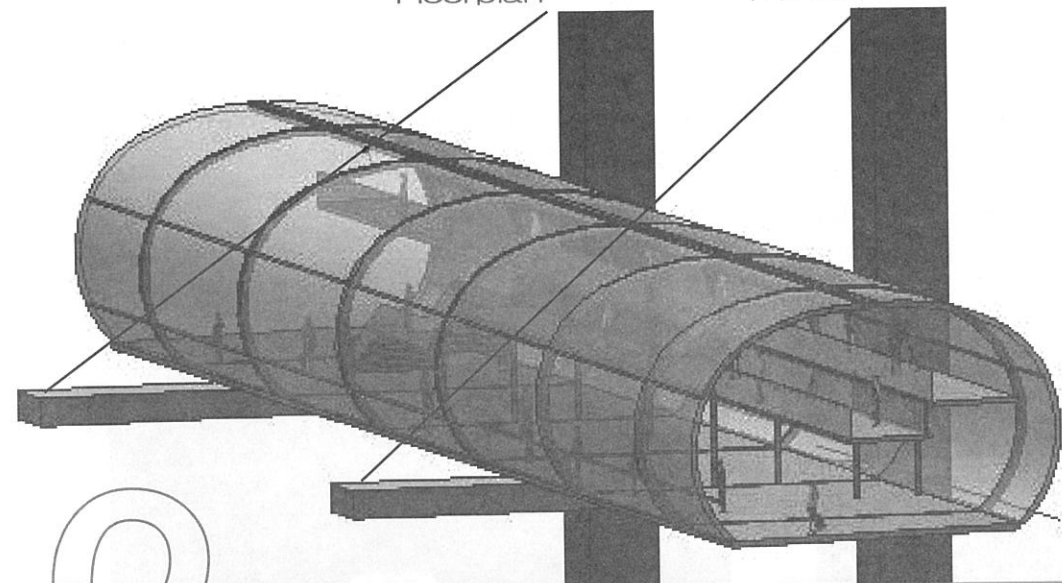
PLANNING

STAND PROMENADE
FLOOR · SECTION · ELEVATION PLAN



Floorplan

1:1000

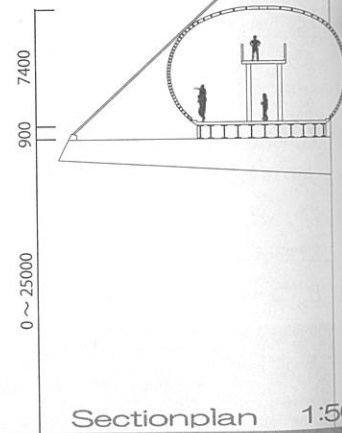


Standard Type
We cannot move our seat.

Change
We can move around.
Grandlevel is higher than before.

Structure
The structure use a cantilever.
It makes us catch the eyes
to landscape.

Roof
Circuit ban people from putting
up umbrella.
The roof save racing from danger.



Sectionplan 1:500

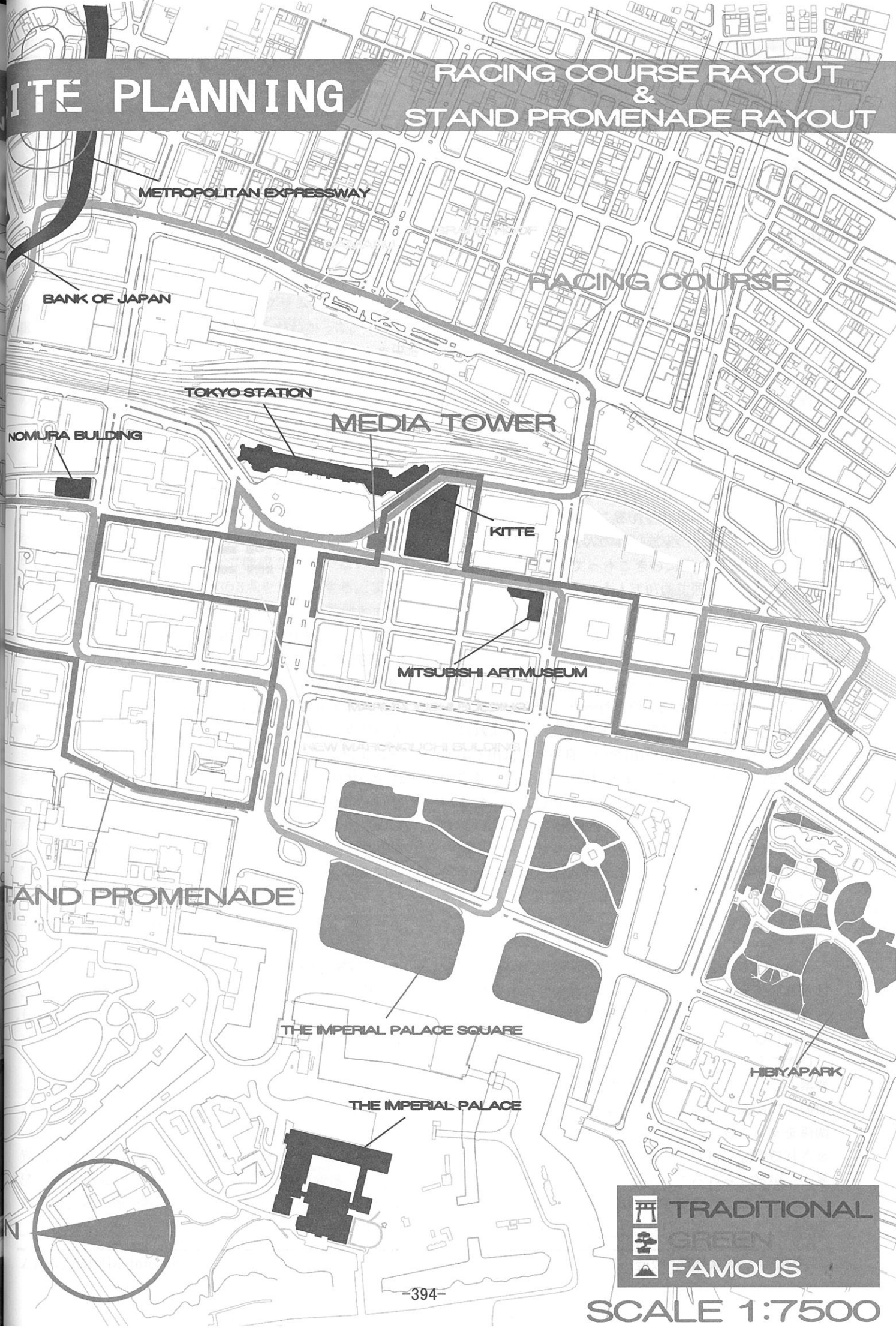
MODEL

3D MODEL
&
3D VIEW



SITE PLANNING

RACING COURSE RAYOUT
&
STAND PROMENADE RAYOUT



METROPOLITAN EXPRESSWAY

BANK OF JAPAN

TOKYO STATION

MEDIA TOWER

NOMURA BUILDING

KITTE

MITSUBISHI ARTMUSEUM

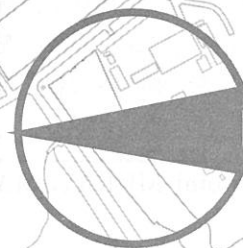
NEW MARUNOUCHI BUILDING

STAND PROMENADE

THE IMPERIAL PALACE SQUARE

THE IMPERIAL PALACE

HIYAPARK



TRADITIONAL
GREEN
FAMOUS

SCALE 1:7500